

関 済 協

関西済州道民協会 会報

第4号

1997年7月10日発行



【主な内容】

- ◎総会・新年会
- ◎済州国際コンベンションセンター
- ◎婦人会1周年
- ◎済州島の歴史
- ◎賛助広告



会旗の説明

関西濟州道民協會の会旗（写真）は創立總會の席上、濟州道知事より贈呈されたものです。

会旗の円は太陽、統合、和合を表し、三太極は三多、三無、三清（澄んだ水・澄んだ空気・澄んだ人心）を表しています。また四隅は四団体の合心、すなわち統合を意味しています。

図案制作者は濟州大学美術学科教授の文基善氏。同氏は一九三五年に濟州市で生まれ、六〇年ソウル大学校美術大学卒業、六五年濟州道旗図案、八〇年濟州道文化賞受賞、八四年第一三回全国少年体典聖火台製作、八八年ソウルオリンピック寄着聖火台製作等々、斯界の第一人者です。

◇題字「関済協」は康忠男名誉会長の直筆です。

◇表紙の写真は濟州国際コンベンションセンターが建設される中文観光団地の景観です。写真右上あたりが建設予定地です。



どうすれば濟州道に貢献できるか 積極的な心を持てば 幸せの風が吹いてくる 濟州国際コンベンションセンターに期待

ご挨拶 会長 呉 辰 成

昨年は濟州道が道に昇格して五〇年という記念すべき年でした。慎久範知事は「道制五〇周年を機に、私たちは濟州道のために何をしたらいいのかを考えよう」と呼びかけ、金泳三大統領は「韓国は先進国へ仲間入りするかどうかの節目の年であり、和睦の年ではない」と明言しました。つまり、何事も話し合いで解決し、地域差別や労働紛争を収束させて、共生共存していかなければならない

ということであります。

日本ではバブルで急成長した不動産会社が倒産したり、まさかの金融機関も倒産したりで、それを引き継ぐような形で、今年も大変な年ですが、会員皆さんの企業はつつがなく維持されているということをお聞きし、非常に心丈夫に感じております。これも、分相応に営々と一生懸命努力している結果ではないかと思えます。

月日が経つのは早いもので、私が会長を引き受けまして、一年半が経過いたしました。前会長が余りにも素晴らしい方でしたので、私自身、会長職を全うできるかどうか大変心配でしたが、皆さんのご協力、ご支援により無事に努めることができました。今後とも更なるご支援、ご協力のほどよろしくお願い申しあげます。私のモットーは「楽しく、明るく、ほがらかに」で、関濟協もこの精神で運営してい

たいと願っております。

昨年六月には、私の公約でありました「婦人会の結成」を実現いたしました。二一世紀は女性の時代といわれますが、関濟協の婦人会も伊勢志摩に一泊の研修旅行を実施するなど活発に活動しております。そうした団体活動は総領事館や同胞団体の注目的となり、温かい支援と指導を賜っております。また、二一世紀を担うのは若い青年です。青年は大志を抱いて、前向きに積極的に行動することが大切ではなからうかと思えます。

私は、次の五つの言葉を常々反復しております。一つ目は「できるだけ積極的な心で考えなければならない」、二つ目は「できるだけ積極的な心で話をしなければならない」、三つ目は「できるだけ積極的な心で行動を起こさなければならない」、四つ目は「できるだけ積極的な心で人に接しなければならない」、五つ目は「できるだけ積極的な心で社会に貢献しなければならない」というものです。この五つの言葉を忘れずに実践して

いくと人生はすばらしいものになるはずで

尊敬する慎久範知事は、「知事として、どうすれば、濟州道に貢献できるのか」という命題のもと、「二一世紀に向かって、濟州道を、外国のお客さんが来ても恥ずかしくないより以上の島にしたい」という願いから、一八〇〇億ウォンという膨大な事業費を投ずる「濟州国際コンベンションセンター」の計画を打ち出しました。

この計画に対し、関濟協も梁斗京常任副会長を委員長に、大阪地区推進委員会を発足させ、全面的に協力していくことになりました。建設には幾多の困難もあるでしょうが、二〇〇〇年完成予定の「濟州国際コンベンションセンター」が立派にできあがり、子々孫々の財産として末代まで継承されていくことを祈願してやみません。「勝利は最後の五分間にあり」と申しますが、幸せの風が濟州道と関濟協に吹いてくることを確信しております。

濟州道人の矜持もって 地域社会と同胞社会の 発展に貢献して下さい



駐大阪総領事
金世澤

以前は四つの団体がそれぞれに活動しておりましたが、

これが一つになって、より活発に活動しておることはまことに喜ばしい限りです。和歌山日韓親善協会の新年会の席上で、和歌山市長が「濟州市と和歌山市とが姉妹結縁を結んだことに対し、本当に喜んでいきます。二十何年前に濟州島へ行って、素晴らしい観光開発を目にし、感心しました」とおっしゃっていました。

このように、濟州島は、日本ではすばらしい島として知られています。韓国でも女の子を生んだらソウル、女の子

を生んだら濟州島という話があります。私があることがあったのは一九五七年のことでした。その頃は濟州島サトリしかわからず、淋しい生活をしましたが、外交官の生活も同じようなものでした。大阪にきて初めて、濟州島出身者ということがこんなにも素晴らしいものかと心より思うようになりました。

韓日友好親善の関係なしにこの地域の発展はありませんし、世界の平和、繁栄もありません。この基本認識をお互

い持っていたらだいたいと思います。その意味からも濟州道民の役割も大きくなっています。濟州道民は地域社会の発展にも積極的に参与し、民間組織にも積極的に参与して地方参政権獲得や国籍条項撤廃などの活動を展開していただきたいと思えます。そして、お互いに協力しあいながら事業の発展に努めていただき、若い人は韓国語を勉強して欲しいと思います。

濟州国際コンベンションセンター は21世紀アジア太平洋時代の 「偉大な濟州道時代」を 切り開くための出発点



濟州道知事
慎久範

昨年は道制五十周年でした。過ぎた年を回顧し、これからの新しい五十年、すなわち第二の道制改革を準備して、私

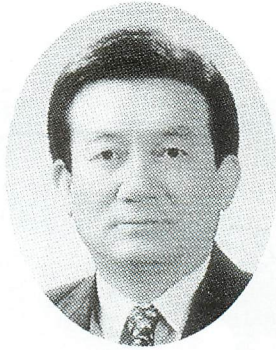
たちの生涯、歴史、開発、未来などあらゆる面において、濟州島人がその主人になるとの決意で、未来のための希望に満ちた一年一年を創るために努力したいと願っております。

私は常々、濟州道はこれから在日同胞のために何かをしなければならぬという命題のもと、日本で一人で住んでいる老人のための故郷訪問事業、家のない老人の故郷養老院への受け入れ事業、太平洋戦争時に無縁仏となって放置されている方々の故郷安置事業等々、これらの体系的な協力支援策を具体化するために濟州道庁に「在外道民課」をすでに設置しました。

在日同胞社会が故郷ともつと密接な関係が持続できるこのような全ての事業を道民同胞事業として、道民皆さまと一緒に実現するために最善の努力を尽くしたいと思います。

また、国際会議場である濟州国際コンベンションセンターは道民の株によって建設する事業です。すなわち、濟州道民が主人精神に立脚して濟州道開発に取り組む全道民の記念碑的な経営収益事業です。

親愛なる関西濟州道民の皆さんは故郷発展のために献身され、今は濟州人の自尊の象徴である濟州国際コンベンションセンターを建立するために百万内外道民と力を一つにしております。二一世紀アジア太平洋時代には、わが濟州道が東北アジアの中心軸として、われわれ全ての力量を集約し、「偉大な濟州道時代」を切り開いていかなければなりません。



国会議員
邊 精 一

国会倫理特別委員長

異国の地日本で祖国と故郷済州の発展及び在日同胞の地位向上のために努力しておられる呉辰成会長と役員皆さまの労苦に敬意を表します。第4号関西済州道民協会報を発刊されることを真心より祝賀し、それに挨拶をする機会がもてて嬉しく思います。

私は、大韓民国国会倫理特別委員長と国会生活法律研究会長としての職責を充実に遂行して、故郷済州道と大韓民国の発展のために尽力し、在日同胞の權益伸張および地位を向上させようとする「韓・日議員連盟」韓国側幹事として一生懸命に努力しております。今までも関西済州道民協会が大韓民国と済州道の発展のために多くの役割を果たして参りましたが、地方自治時代の役割は、特に重要で、より大きな力を発揮することは明かであります。

済州道の発展のために持続的な関心を持ち、積極支援をしてくださることをお願いし、私に対しても限らない声援と支援をしてくださる関西済州道民協会会員皆さまに感謝申し上げます。関西済州道民協会会員皆さまの家庭に変わらぬ健康と幸福が共にあふれることを祈願します。



国会議員
梁 正 圭

道民協会ほど会員の参与意識が高いところはないと思います。みなさん一人一人の立場でみれば、みなが開拓者です。会員の皆さん、今の故郷は大いに変わりました。生活ぶりだけではなく、歴史の流れも変わりつつあります。これからは21世紀を迎える準備として、お互いに力を合わす時だと思えます。

今回発刊される会報4号は私たちの出会いを結びつけながら愛郷の意志を高める大きな橋の役割を背負っています。どうか故郷を離れる時、皆さんが抱いた青雲の夢がかなえられますように、また、関西済州道民協会の無窮な発展と会員の皆さんのご健勝を祈願します。



国会議員
玄 敬 大

関西済州道民協会会報の関済協第4号発刊を100万済州道人と共に祝賀します。また関西済州道民協会会員間の親睦図謀と道民会の発展のために昼夜を問わず労苦を惜しまず、故郷に対して深い愛情で済州のために多くのことをしてきた呉辰成会長と役員、そして、会員皆さんに敬意を表します。

皆さん、与えられた条件の中で、済州人の矜持と自尊心を忘れずに、営々と生活してきた関西済州道民皆さんは立派な済州人です。関西済州道民皆さんに心より声援を送ります。

まして、関済協第4号発刊が関西済州道民協会の発展と会員間の紐帯強化に大きく寄与することを期待し、関西済州道民皆さまと家庭に幸運と万福がみちあふれ、健勝を祈願します。

祖国と故郷の発展に限りなく尽力される関済協の皆様
に敬意を表します



第4回定期総会を開催

都ホテルに200人が集う

【第四回定期総会】
 関西西済州道民協会は一月二十五日午後六時から大阪市天王寺区の都ホテルで総会員数六六七名中、本人出席一三六名、委任状二九二名の出席のもと第四回定期総会が開催された。総会は、金聖大総務部長の司会で進められ、経過報告（安泰栄総務担当副会長）及び事業計画案（李純安事業担当副会長、財政報告及び新年度予算案（洪正雄財政担当副会長）、監査報告（金達孝監査）等が行われ、また、昨年急逝した金用文渉外担当副会長の後任に金成洙部会担当副会長（兼任）を、また李永哲事務局長を専務理事に昇格させる人事が原案通り満場一致で承



金世澤総領事ご夫妻に花束を贈呈する申永林婦人会長



来賓の方々



民団大阪本部団長

洪性仁

異国の地では同じ郷里の人間が共に語らい、本国との文化交流を深めることが大切で、それが道民協会の精神だと思えます。国際化時代と

を造ることが民団の仕事です。大阪の地で条件付きではありませんが、国籍条項が撤廃され

お礼のことは 本日は、済州道民協会をあげてこのように盛大な式典を催していただき、改めて二十

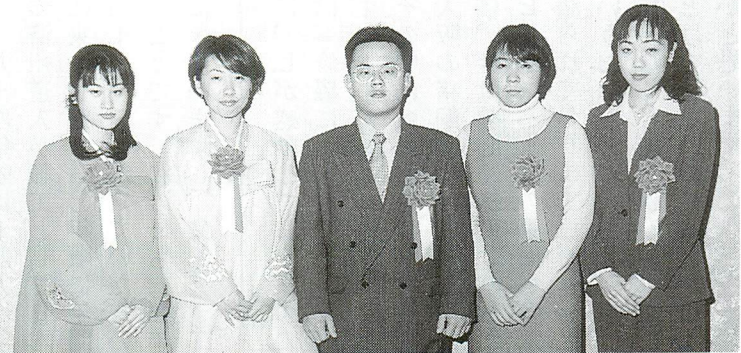
この記念の日を祝っていただき、皆様に感謝を申しあげお礼のことばとさせていただきます。

一九九七年一月二十五日 成人代表 韓 未 起



認、可決された。 梁斗京常任副会長の閉会辞で総会を終了し、同所で、呉景学体育担当副会長の司会のもと、新年宴会が開かれ、席上、新成人六人の前途が祝福され、社会福祉法人「心の家族」に金一封が伝達された。

⑨婦人会育成⑩青年会育成等。



【新成人(写真上)】

新成人の氏名は次の通り。 ◇韓未起(帝塚山学院大学二年)◇金令子(帝塚山学院短期大学三年)◇洪松美(夙川短期大学二年)◇金理香(神戸女子大学二年)◇洪成勲(和歌山県立医科大学一年)◇金泰勲(光洋ビニール商会)

はなむけの言葉を胸にきざみ立派な韓国人になります



ほど多くの人々と出会い、ふれあつて育てられてきました。一番身近な家族をはじめ、学校、地域、そして職場。人の中で生活し、人と共に生きていくことで随分大目に見てもらい、甘えさせてもらったような気がいたします。これからは、一人前の韓国人なのだと、このことを常に忘れず、二一世紀の済州道はもろろんのこと、私達の地域社会発展のため尽くす覚悟です。

大阪生まれの作家（済州道人） 梁石日氏を迎えて文化講演会 済州道通行組合活動が 民族運動に大きな影響



梁石日講師

【梁石日講師プロフィール】

高基秀文化担当副会長が紹介した梁石日氏のプロフィールは次の通り。

梁石日先生は、一九三六年大阪に生まれた済州道人です。

作家・梁石日氏を招いて「済州道の文化を語る」と題する文化講演会が、第四回定期総会の前に行われた。講演要旨（特に渡日を語った部分）は次の通り。講演終了後、婦人会から花束が贈呈された。

【講演要旨】

生まれたところが故郷でしようから、私の場合は大阪といえなくもありませんが、日本人と間違えられるような気がして、私は躊躇なく済州道と答えてきました。大阪は済州道人が多い所で、子供の頃は在日朝鮮人というのは済州道人だとばかり思っていました。

一四一四年頃に十四人ほどの済州道人が職工として日本にきました。二〇年頃に年間三千人ぐらゐが来ていたという事です。私の母も一九年にきていますし、父も一、二

梁石日講師を紹介する
高基秀文化担当副会長



に、私が感動しておりますのは『修羅に生きる』という先生の人生を語った作品です。その中には私どもにも身近な大阪の猪飼野や大成通りや鶴橋、今は美しく様変わりしたビジネスパークの場面も多く語られております。『雷鳴』というお母さんの人生も、本当に涙なくして、読み尽くすことはできないのではなからうかと思えます。

三十歳頃まで大阪で過ごしましたが、事業に失敗して東京へ行きました。その時のタクシー運転手の経験を綴った「月はどつちに出ている」はベストセラーになり、映画化もされました。九五年には直木賞最終候補に選ばれ、九六には東大で講義されました。日本の文壇界でユニークな賞賛を浴びています梁石日先生には十七冊の小説、詩集、評論集がありますが、その中で特

年後に来ました。これが一挙に増えてくるのは大阪へ済州道間に「君が代丸」が就航してからです。当時、済州道がいかに貧しかったか。日本の植民地で、日本での仕事はいわゆる三Kで、日本人の一番の低賃金を上限にして、その

半分から六割という水準でした。それでも済州道に帰ったから羨ましがられたということですが、それは新しい服とか化粧品とかを持っていたからです。当時の阪神工業地帯は活況で、安い労働力を求め、済州道も出稼ぎを奨励しました。その利害が一致して、二三年四月頃、二二年という説もありますが、大阪済州道航路を就航させました。就航して一年後には八千人ぐらゐが来ています。その後、地縁、血縁で年間に一万人、二万人という量で大阪に来ました。

三二年頃には余りにも来すぎるということで規制されました。済州道の方でも困ってしまいました。村ごと来てしまつて空っぽになり、農耕する人が極端に減つてしまつたからです。それがまた農地を疲弊させ、もつと食えなくしてしまいました。そういう状態で、結果的には五分の一ぐらゐの人口が日本に渡つてきました。

大阪済州道航路は尼崎汽船の路線でした。植民地政策に沿つた労働力確保の汽船で、



「済州道の文化を語る」と題して後援する梁石日氏

康忠男名誉会長が 济州道文化賞を受賞 地域社会部門の活動 が高く評価される



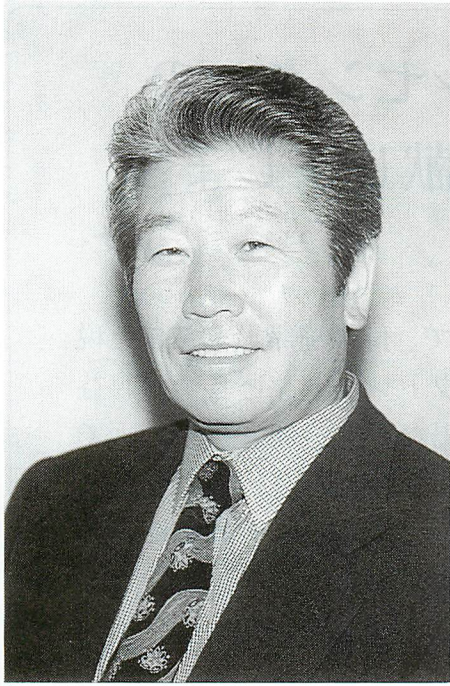
九六年度济州道文化賞を受賞した康忠男名誉会長の受賞祝賀会が二月二十一日、大阪市中央区のホテルニューオータニで約百人が参加して行われ、济州道から慎久範知事や宋奉奎道議会議長らもお祝いに駆けつけた。

同文化賞は学術、教育、言論、出版、体育、地域社会の六部門があり、康忠男名誉会長は奨学基金や济州四団体統合など数々の功績が評価されての地域社会部門での受賞となった。副賞五百万ウォンは全額、济州道身体不自由障害者総連合会に寄付した。この日もまた、特別養護老人ホーム「故郷の家」に百万円、関济協に三百万円を誠金した。

康忠男名誉会長は一九二六年、南济州郡表善面細花里に生まれ、四〇年に渡日した。六六年に富士電線工業を設立し、大阪府知事表彰や通産大臣賞、内閣総理大臣紺綬褒賞など数々の賞に輝いている。

阪神工業地帯や、女工なら堺あたりへ送り込みました。その三割が济州道人で、後の三割が沖繩人でした。沖繩航路もありました。女工哀史そのもので、近隣の人たちは低賃金で缶詰状態の紡績工場では働きませんでした。二四年頃の大阪の労働者人口は大阪九万四五〇〇人、鹿児島一万四〇〇〇人、朝鮮人一万一三五〇人、兵庫県一万一〇〇〇人で、ゴム、繊維、鉄工が主な職種でした。济州道人の出稼ぎは階層は地主三九%、自作農五五%、自作農兼小作農六六%、小作農八〇%で、最初は男性の単身、そして、家族、そして女性がどんどんと来て、三四年頃には大体半々ぐらいになっています。

大阪济州道航路は片道一二円五〇銭で、日本人労働者の賃金が大体四〇円ぐらい、朝鮮人はその半分程度ですから二〇円ぐらいですから、ものすごく高い運賃でした。で、もつと安くしろという闘争になり、とうとう济州道人に呼びかけて「济州道通行組合」という組合を作り、自分たちで船を造ろうということになりました。一所帯から五円づつのカンパを集めた金をもつて、函館まで行き、六〇〇トンの船を借りました。そして六円五〇銭にしました。すると、尼崎汽船も六円五〇銭にし、組合を結成したというところで、警察の弾圧も受けました。そして、三円にまで下げられました。とうてい太刀打ちできなくなり、あえなく、組合は運営を放棄しました。すると、また六円五〇銭に戻りました。で、借りていたのはダメだから、買おうということになり、また金を集めて買いました。この時点で、「济州道通行組合」の会員は一万名ぐらいに達し、ものすごく大きな組織になっていました。そして、三年ぐらい結局、警察、つまり権力に倒され、解散させられました。その後、日本は戦争に突入していきましたが、思えば、植民地化のあの当時、本当によく頑張ったと思いますし、その後の在日の運動に大きな教訓となっています。



コンベンションセンターは在日同胞 と故郷とを結ぶ力強い架け橋 21世紀にかける大きな夢であり 子々孫々に残す素晴らしい財産

濟州国際コンベンションセンター大阪地区推進委員会委員長を引き受けた梁斗京常任副会長は「故郷との関係が薄れていく在日にとっても子々孫々にまで残り、誇りうる施設として、多くの濟州道民が参加して協力したい」との信念のもとに自ら十億ウォンを請約し、関西地区での牽引者となっている。梁斗京委員長に、建設協力に託す夢を語っていた。

濟州国際コンベンションセンター
大阪地区推進委員会
委員長 梁斗京
(本会常任副会長)

石と風と女の三つが多いことから三多の島と呼ばれてきた私たちの故郷、濟州島は昔は貧しく、それが故に日本に出稼ぎに来た一世の方々は一生懸命働き、困難な環境のもとで生活基盤を営々と築き上げてきました。私たち二世は、一世が築き上げたそれら諸々の財産を引き継ぎ、その財産をまた私たちの子供である三世、四世に譲り渡していかなければなりません。

「故郷忘れがたく候」という言葉もありますように、故郷は人間にとって必要かくべからざるものです。しかし、日本で生まれ育つた三世、四世の世代になりますと、民族意識が薄れ、先祖が生まれ育つた故郷との関係が次第に希薄になっていきます。この現実には悲しませざるを得ません。

このような時に、慎久範知事は、「百万濟州道民の二一世紀に輝く財産を築こう」と濟州国際コンベンションセンターの計画を打ち出しました。二一世紀を目途（もくしよう）するこの機にあつて、まさに時宜を得た夢ある構想と双手を挙げて歓迎せざるをえません。と申しますのも、コンベンションセンター建設に参与することによって、故郷がより近くなり、そのコンベンションセンターは子々孫々に引き継がれる素晴らしい財産として永遠に残っていくからであります。

幸い、関西地区では副委員長や委員の皆さんが昼夜を問わず、縁故者たちに直接会って、コンベンションセンター事業の素晴らしさを説明し、請約をお願いしました。そのおかげで、多くの道民に請約していただくことになりました。大宇グループの金宇中会長夫妻も五十億ウォンを投資しましたように、二〇〇〇年に完成予定の濟州国際コンベンションセンター事業は、韓国内はもちろん世界に点在する濟州道出身者の間でも熱烈に歓迎されており、コンベンションセンター事業は一株五千ウォンの株式出资方式をとっており、個人は一〇万六〇億ウォン、法人は一〇〇万〜一八〇億ウォンが出資できます。そして、総額一八〇億ウォンという膨大な事業費を投入する事業ですが、そのうち六〇九億ウォンを私たちの力で投資することになっていきます。子々孫々に委譲するこの記念碑的な事業は、今の時代に生を受けた私たち道民の手では是非とも成し遂げなければなりません。

(株) 濟州国際コンベンションセンターの 株主になって郷土の発展に貢献しましょう

【コンベンションセンターとは】

5千人が収容できる最先端の大規模な国際会議場で、付帯施設として、免税店、カジノ、屋外カフェ、映画館、濟州ショー、アウトレットなど6つの収益事業施設が建設され、将来はケーブルカー、スキー場なども追加される計画です。建設地は中文観光団地内で、東洋のハワイとして知られる濟州道のイメージを全世界に広める効果を持つと期待されています。専門家からも確実な収益が予想され、有望な投資先と分析されている(株)濟州国際コンベンションセンターの株を取得することは、郷土発展にもつながる有意義な投資です。この機会に是非、あなたも株主になって下さい。

※株主になられた方のお名前を刻印して、後世に長く保存します。

※メンバーシップ制によりセンター施設利用時に、株主割引特典もあります。

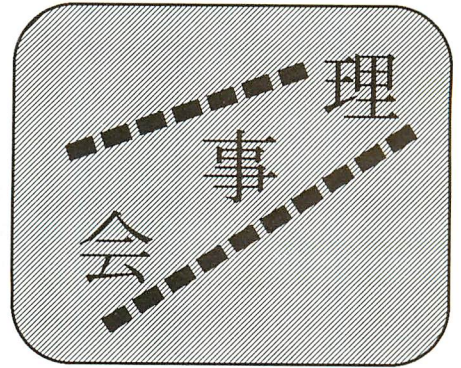
【濟州国際コンベンションセンターの概要】

◇場所 中文観光団地第2段階地域内 ◇敷地 32,740坪 ◇建物 地下1階、地上4階(5,000人収容の会議室) ◇建坪 16,400坪 ◇着工 1997年11月 ◇完成 2000年 6月 ◇運営形態 株式会社方式 ◇授権資本金 1200億ウォン(総事業費1800億ウォン) ※道民株 609億ウォン ※自治体株 450億ウォン ※観光公社株 141億ウォン(土地現物出資) ※借入金 606億ウォン ◇株式の公募 1株5000ウォン ※濟州道に住所または本籍(原籍)を置いている在外道民、名誉道民 ※濟州道に本社を置いているか、主たる作業場がある法人(濟州道に住所または本籍(原籍)をおいている個人が代表である法人も含む) ◇購入限度額 ※個人10万~60億ウォン ※法人1000万~180億ウォン ◇購入受付期間 4月10日~7月5日(第1次募集) ◇購入受付場所 ※濟州、国民、新韓、ソウル、外換、第一の各銀行、農協・畜協などで ※道民会・邑・面・洞事務所などでも受け付ける ◇推進委員会 大阪、東京、濟州、ソウル、釜山(5地区委員総数313人) ◇支援委員会 西帰浦市、仁川、大田、西部慶南、米国など15カ所(委員総数93人)

【道民株購入のお問い合わせ】 関西濟州道民協会 06-973-3700

(株) 濟州国際コンベンションセンター

大阪地区推進委員会



【第九六一―二回理事会】

第九六一―二回理事会が理事一六一名のうち本人出席四九名、委任状六〇名の出席のもと十二月六日、大阪市天王寺区の都ホテルで開かれ、挨拶に立った呉辰成会長は、「ほがらかに楽しく明るくをモットーに一生懸命やっていた」と述べた。

金聖大総務部長の司会のもとと総括報告（安泰栄総務担当副会長）と財政報告（洪正雄財政副会長）が行われ、事業計画案（李純安事業担当副会長）、予算案等が審議され、原案通り満場一致で承認、採択された。梁斗京常任副会長の閉会辞で理事会を滞りなく終了し、席を移して、七時より



【第九七一―一回理事会】

忘年懇親会がもたれ、なごやかに歓談した。

第九七一―一回理事会が理事一六四名のうち本人出席五一名、委任状五六名の出席のもと三月二十八日、大阪市天王寺区の都ホテルで開かれ、挨拶に立った呉辰成会長は、「月日が経つのは早いもので、残る任期を楽しく明るく努めた」と述べた。

金聖大総務部長の司会のもとと会務報告（安泰栄総務担当

副会長）と財政報告（洪正雄「関済協」の決算報告が李純財政副会長）が行われ、事業計画（李純安事業担当副会長）、基本財政確立等が審議され、原案通り満場一致で承認、閉会辞で「コンベンションセンター」推進委員長を引き受け

ハングルワープロを先駆けて開発した
高基秀文化担当副会長（高電社社長）が
在日韓国科学技術者協会の会長に就任
在日同胞の人材発掘に意欲



本協会の高基秀文化担当副会長がこのほど、在日韓国科学技術者協会の会長に選出された。高基秀副会長は、ハングルワープロを先駆けて開発し、パソコンソフト業界に揺るぎない地位を確保している高電社の経営者としても知られている。

在日韓国科学技術者協会は

在日の優秀な頭脳が集うシンクタンク的な組織で、著名な学者、研究者も数多く加入している。今回、新しく会長に選出された高基秀副会長は、

先端企業の経営者にふさわしく、在日韓国科学技術者協会が果たすべき役割をきちんと整理し、在日同胞社会に貢献する最善の方策を模索している。

※以下は東洋経済日報六月十三日号に紹介された高基秀・在日韓国科学技術者協会会長のインタビュー記事の要約である。（高基秀副会長より一九三四年生まれ。早稲田大学

ることになりましたが、我々が力を合わせれば達成できると思います」と強調した。理事会終了後、席を移して懇親会がもたれ、なごやかに歓談した。

卒業。一九七九年高電社設立）組織の強化が緊要で、留学生だけでなく、在日の会員も掘り起こしていきたい。在日の研究者は、その研究が有効に社会に還元されないというハンデを背負っているので、そういう優秀な研究者をバックアップできる組織にしていきたい。

そのためには、本国との友好的な関係も必要となり、アジアや世界と交流も大切だ。また、積極的な広報活動も不可欠だ。現在会員は二千人ほどだが、それをさらに拡大、強化し、在日の学者、研究者が広く世界に貢献できる環境づくりを目指したい。その意味からも、八月二十日からモスクワで開催される「九七年世界韓民族科学技術者共同協議会総会」への参加を楽しみにしている。

執行部定例会議

第九六一八回

執行部定例会議

第九六一八回執行部定例会議が八月一日に関済協事務所で開かれ、経過報告の後、敬老会、漢拏文化祭、野遊会、第五回ゴルフコンペ、後半の事業計画等の案件を審議した。

報告の後、漢拏文化祭及び在外濟州道民協議会創立晩餐会、野遊会、第五回ゴルフコンペ、第二回理事会、財政確立等の案件を審議した。また、韓国の水害義捐に二十万円、青年会OAFに十万円等を支援したことが報告された。

第九六一三回

執行部定例会議

第九六一三回執行部定例会議が一月十三日に関済協事務所で開かれ、十二月二十一日に急逝した韓成根財政部長に冥福を祈つて黙祷が捧げられた。経過報告、財政報告の後、第四回総会、コンベンションセンター等の案件を審議した。また、濟州道文化賞を受賞した康忠男名誉会長の受章祝賀会を開くことを決定した。

第九七一三回

執行部定例会議

第九七一三回執行部定例会議が四月七日に関済協事務所で開かれ、経過報告の後、ゴルフコンペ、顧問・相談役会

第九七一四回

執行部定例会議

第九七一四回執行部定例会議が五月十二日に関済協事務所で開かれた。

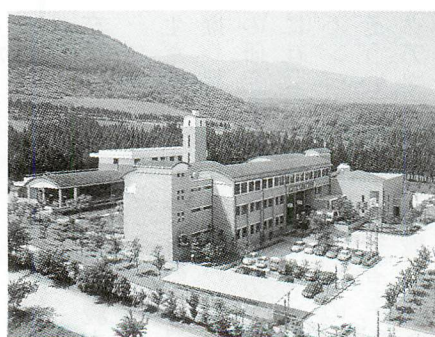
第九七一五回

執行部定例会議

第九七一五回執行部定例会議が六月二日に関済協事務所

八月に夏季学校

在日二・三世の中学、高校、大学生を対象とする九七年度夏季学校が八月三（九日（六泊七日））の日程で濟州道地方公務員教育院（写真）で開かれる。大阪からは三十名ほどが参加する予定で、郷土の学生らと交流する。参加費は二万円、他の費用は本協会と濟州道教育院が負担する。



在日二・三世たちに郷土愛の重要性を教育し、祖国の文化と歴史を理解することに主眼が置かれ、また、ウリマル教育と生活教育を通じて、濟州道の現況を理解させるプログラムが組まれている。

執行部定例会議

第九六一〇回執行部定例会議が十月一日に関済協事務所

執行部定例会議

第九六一二回執行部定例会議が十二月二日に関済協事務所

執行部定例会議

第九七一二回執行部定例会議が二月三日に関済協事務所

執行部定例会議

第九七一三回執行部定例会議が四月七日に関済協事務所

執行部定例会議

第九七一四回執行部定例会議が五月十二日に関済協事務所

執行部定例会議

第九七一五回執行部定例会議が六月二日に関済協事務所



アジサイ
紫陽花の咲くこの季節に皆様のお
陰で創立一周年が迎えられました

10月5日に若人のふれあいパーティーを開催予定

昨年六月に結成された本協会婦人会の一周年記念パーティーが大阪市天王寺区のホテルで午後六時から華やかに開催された。金善濟(田中)総務担当副会長の司会のもと、挨拶に立った申永林(松岡)会長は、「紫陽花の花が咲くこの季節に大過なく創立一周年を迎えられましたことは皆様のおかげと感謝申し上げます。一年を振り返りますと、野遊会、ゴルフコンペ、新年会と関西協の行事に参加させていただき、いろいろと学びました。十一月には伊勢志摩へ一泊二日の親睦旅行を実施し、今年も実施する予定です。また、若い人たちのふれあいの場をつくり、交流を深めるためのパーティーも準備しております」と述べた。役員紹介が行われ、金君子(大島)組織担当副会長が事業報告と事業計画を説明し



た。朴勝子(天山)財政担当副会長が財政報告を行い、会員一一九名からの会費、賛助金等による収入が一〇二万三千元規模になり、また伊勢賢島親睦旅行の収支も別途報告した。この後、梁斗京常任副会長が、急用で出席できなかった呉辰成会長に代わって激励辞を述べ、済州国際コンベンションセンター建設への協力を呼びかけた。また、康忠男名誉会長が、「一年で素晴らしい会ができたのは、女性の力がいかに大きいかを示すもので、今後とも力を合わせて、夢とロマンがある組織づくりを目指して下さい」と激励した。この後、「こころの家族」の尹基理事長夫人に金一封を伝達(写真左)した。最後に、李順

玉(坂本)相談役が閉会辞を述べ、「十月五日のふれあいパーティーには是非ともご参加ください」と強調した。
第二部では、呉承明常任顧問の音頭で乾杯し、なごやかな歓談しながら、クラウンレコード所属の林佑美歌手らの歌を楽しんだ。席上、康武良・青年会会長が、「青年会は六四名の会員で運営していますが、婦人会を手本に、青年会もしっかりと会運営に励みたい」と述べた。
【事業報告】
◆一九九六年五月二十七日 婦人会発足のための懇談会
◆六月十三日 婦人会発足準備委員会
◆六月二十四日 婦人会発足式
◆八月二十日 第一回役員会議
◆九月十七日 第二回役員会議
◆十一月五日 会長団会議
◆十一月二十一日～二十二日 伊勢賢島親睦旅行
◆十二月六日 総領事夫人との食事会
◆一九九七年四月十七日 第三回役員会
◆六月五日 第四回役員会議
◆六月二十日 老人ホーム「故郷の家」慰問
【事業計画案】
◆十月五日 青少年ふれあいパーティー
◆十一月 一泊二日の親睦旅行

伊勢志摩へ1泊2日の親睦旅行



本協会婦人会は十一月二十一日、二十二日の両日、伊勢志摩で一泊二日の懇親旅行を実施した。この懇親旅行には五十八人が参加し、二十一日午前八時三十分本協会前に集合、大型観光バスで名阪道を快走した。

伊勢神宮に参拝した後、昼食をとり、おかげ横町等を散策した。午後四時に宿泊先の賢島室生苑に到着し、入浴後、宴会に臨んだ。翌二十二日は志摩スペイン村を観光し、浜島く英虞湾の海上遊覧を楽しんだ。午後四時に帰路につき、午後六時過ぎ本協会前に到着して解散した。

結成一周年を迎え初心に返って日々研鑽し、実りある会に

ご挨拶
婦人会会長 申 永林 (松岡正子)



関西済州道民協会の婦人会が皆さまのお力添えにより、昨年六月に結成することができました。それから早や一年という歳月が光陰矢の如しと申しますように瞬く間に過ぎてしまいました。その一年間を振り返って見ますと、昨年八月に都ホテルで第一回目の役員会を開催し、十一月には伊勢志摩で一泊二日の有意義な研修旅行を実施いたしました。そのたびに、関西協より多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。とともに、私ども婦人会に対する皆さまのご期待が予想以上に大きく、正直申しまして、戸惑っている次第であります。

最近では職場や家庭でも男女平等という時代となってきましたが、私どもの世代の女性は家庭に束縛されて社会活動に参加できる時間はありませんでした。しかし、関西協の皆さまのご指導ご支援により、時代の潮流に乗り遅れないようにとのご配慮から、婦人会が設立でき、社会活動の場を与えていただき、皆さまのご期待に添うべく、女性としての活動を展開したいと思っております。

そして、関西協初代会長の康忠男名誉会長の「夢とロマンのある組織」、呉辰成会長の「楽しい笑いのある組織」というお考えにそって、婦人会活動をいろいろと模索し、研究してまいりました。同胞社会の最大の悩み事は結婚問題です。民族精神が薄れ、故郷がより遠くなっていく若い世代の結婚問題は実に深刻です。私ども婦人会の会合でもその事が常に取り上げられ、話題となりますが、来る十月五日には都ホテルで若人のふれあいパーティーを開催する予

定ですのでご期待ください。

済州道が「コンベンションセンター」の建設構想を打ち出したことは誠に時宜を得た事業であり、在日同胞と故郷との連帯感造成に大きく寄与するものと信じて疑いません。私ども婦人会も、このコンベンションセンター事業に何かの形で貢献できればと願っております。

アジサイが咲く季節に婦人会設立一周年を迎えた今、初心に返って、日々研さんに努め、実りある会にして参りたいと存じます。皆さまのさらなるご指導ご支援をお願い申し上げます。



婦人会役員

還る地を求めて模索し見い

だすのが青年会の存在意義



青年会会長

康 武 良

4 団体が統合され、はや4 期目を迎え、青年会としてはより充実した会活動をめざし、会員間の親睦を深める努力を致すつもりです。特に母国訪問におきましては、現在の2 世3 世の愛国心を育み、在日社会のより一層の向上をめざすにふさわしい行事だと考えられ、私の今までの母国訪問の体験で得た対母国、また民族感などを書き述べ、皆さまのご協力を承りたいと思えます。

濟州道は古くから「三多・三無」の島と呼ばれてきた所で、「三多」とは「風・石・女」、すなわち風が多く、石が多く女性が多い。「三無」とは、「乞

州空港に到着し、車を走らせながら眺める風景は私の心を不思議に和ませてくれました。

日本での生活の中では触れることのなかったハンブルグ文字の看板が無性に懐かしく思えたり、行き先々で交わす手と手のぬくもりと「アンニョンハシムニカ」「チャルオシヨシヨ」・・・母国語を自由に読み書きできない私でもその流暢な言語にしばしの安堵感をおぼえたものでした。また、祖先の墓参りをしている時など何気なく「ただいま」とつぶやきながら手を合わせている自分自身に思わず驚愕し、今でも特別に意識しなかった郷里が急に近く温かいものにも思えたのでしたが、その郷里の自然や大地は私の心をあたかも大きく包みながら現実には日本という異国で生まれ生活を営んでいる私にとつて吹く風はどこか冷ややかだとふと気づいたので。

後には母国である中国に還ることを願って現地に墓をつくらぬ風習があったという言葉だそうです。現在でもそういった風習が残っているかどうかは明白ではありませんが、この言葉の意味深さに私自身様々な矛盾に悩まされるのです。

ご承知の通りわが母国はその悲しい歴史が背景となつて、現在も非常に不安定な状況下であります。その上で、在日というのは民族の問題からみても国家の問題からみても矛盾の塊を抱えているのです。話が哲学的になりましたが、すくなくとも異国で生まれ育った人ならば一度は考える問題ではないでしょうか。

私はここに青年会の存在の大きな意義があると思えるのです。日本に存在する同胞の数は約六十九万人。濟州道に郷里を持つ人の数は日本全国においても関西地区においても多数を占めるといわれております。ゆえに同胞社会を支援していくのは我々濟州道を郷里に持つ者達の力の結集が必要と言つても過言ではないと

言えるでしょう。

必死に走り抜いてきた一世達・・・そしてそれらを受け継ぐべき我々青年が今、何を求めて、何をすべきか。共に考え、模索する時間を共有できる仲間、それが我々「青年会」だと認識しております。未来を見つめる清らかな青年の眼は短時間でさばききれないその矛盾をじつと見つめ、抱え込み、月日が流れ、世代が変わると共にそれらはきつといい熟し方をし、在日社会の歴史に貴重なものとなることでしょう。その日になれば、おのずと我々の子孫は還る地を見いだせる事と思えます。関西濟州道民協会青年会の益々の発展と一層の団結を心より願う次第であります。

濟州大学へ図書寄贈

一般に郷里といえは、生まれ育った地を指し、私にとつて濟州道とは故郷でこそはあつても、生まれ育った地ではないので、懐かしいつかの思い出に浸ることはないと思つていました。しかし、濟

本協会青年会は毎年、濟州大学へ図書を寄贈しているが旧濟州青年会当時から現在まで二十五回目にわたり四九二一冊（一七九八万六四六〇円相当）の図書を贈呈した。濟州大学には専用の図書室が設置されている。

青年会 1年の あゆみ

◇会務◇報告◇

一九九六年二月

一九九七年六月

≪二月≫▽四日 第三回定期総会(百楽)▽十三日 OAF会議(事務所)▽二十日 広報・事業合同部会(事務所)▽二十八日 財政部会(事務所)
 ≪三月≫▽一日 総務部会(事務所)▽六日 組織・厚生合同部会(事務所)▽八日 委員長会議(事務所)▽十二日 第二回定例幹事会(事務所)▽二十五日 広報部会(てんてこ舞)▽二十八日 OAF会議(事務所)▽二十九日 委員長会議(事務所)
 ≪四月≫▽八日 財政・組織合同部会(事務所)▽九日

第三回定例幹事会(事務所) 十四日 韓国大阪青年会議所
 ≪五月≫▽九日 財政部会 二五周年記念式典(リーガロ(事務所)▽十一日 広報部会 イヤルホテル)▽十九日 会(濟州道)▽十四日 第四回定例幹事会(事務所)▽二十三日 財政・厚生合同部会(事務所)▽二十九日 第二回OAF講演会(大阪韓国人会館)大会(ロート公園グラウンド)
 ≪六月≫▽六日 厚生部会(事務所)▽九日 青友会ゴルフコンペ(北六甲CC)▽十四日 OAF会議(事務所)▽十八日 組織部会
 ≪七月≫▽四日 組織部会(事務所)▽九日 第六回定例幹事会(事務所)▽二十四日 常任役員会(事務所)▽二日 厚生部会(事務所)▽六日 第七回定例幹事会(事務所)▽二十七日 事業委員会(事務所)
 ≪八月≫▽二日 厚生部会(事務所)▽六日 第七回定例幹事会(事務所)▽二十七日 事業委員会(事務所)
 ≪九月≫▽二日 OAF会議(事務所)▽十日 第八回定例幹事会(事務所)▽十三日 常任役員会(てんてこ舞)▽十四日 韓国大阪青年会議所 二五周年記念式典(リーガロイヤルホテル)▽十九日 会長団会議(事務所)▽二十七日 財政・厚生合同部会(事務所)▽二十九日 第二回OAF講演会(大阪韓国人会館)
 ≪十月≫▽三日 総務部会(事務所)▽八日 第九回定例幹事会(事務所)▽十六日 OAF会議(大阪韓国青年会議所)▽十八日 組織部会(事務所)
 ≪十一月≫▽十二日 第一回定例幹事会(事務所)▽十五日 会長団会議(事務所)▽二十二日 総務部会(事務所)▽二十六日 常任役員会(てんてこ舞)▽三十日 忘年会(南海飯店)
 ≪十二月≫▽三日 厚生・財政部会(事務所)▽十日 第一回定例幹事会(事務所)▽二十二日 青友会(レイクフォレスト)
 ≪一九九七年一月≫▽十一日 野遊会(琵琶湖周辺・竜王スケート場・ラフォーレ琵琶湖)▽十七日 新常任役員会(事務所)▽二十五日 第四回定期総会(都ホテル)



野遊会(琵琶湖周辺)を楽しむ

≪三月≫▽四日 会長団会議(事務所)▽七日 第二回定例幹事会(事務所)▽十日 広報部会(事務所)▽十六日 3月度月例スポーツ大会・ボウリング(ロードボウル)▽十九日 組織部会(てんてこ舞)
 ≪四月≫▽十一日 会長団会議(事務所)▽十五日 厚生部会(てんてこ舞)▽二十日 青友会ゴルフコンペ(北六甲CC)▽三十日 第二回委員長団会議(濟州島)
 ≪五月≫▽四日 第一回日韓青少年交流ネットワークフォーラム前夜祭および全体会議(大阪国際交流センター)▽六日 韓国大阪青年会議所講演会(大阪国際交流センター)▽十二日 広報部会(事務所)▽十三日 第四回定例幹事会(事務所)
 ≪六月≫▽六日 組織部会(ニューミュンヘン南大使館)▽九日 厚生部会(事務所)▽十一日 第五回定例幹事会(事務所)▽二十一日 六月度月例会・夕涼会(ニューミュンヘン南大使館)

漢拏文化祭を参観

初日に「在外濟州道民協議会創立晚餐会」を主催
20（海外7、国内13）の道民会が一堂に会す



濟州道庁前で記念撮影

慎久範知事より感謝牌を
授与される李永哲専務理事



梁斗京常任副会長が閉会辞を述べ、「漢拏文化祭を機に協議会ができて嬉しい。国と濟州道がより発展するように頑張らしましょう」と締めくくった。

【日程】

なお、漢拏文化祭参観団の日程は次の通り。

◇十月四日（金） 大阪関西空港午前七時集合 九時三十分K E七五三便で出発 十一時三十分に着 専用バスで吾羅ゴルフ場へ 十二時四十分スタート 五時濟州オリエンタルホテル投宿 七時濟州道民協議会主催「在外濟州道民協議会創立晚餐会」

◇十月五日（土） ゴルフコンペ（六時四十八分スタート・吾羅カントリー）もしくは道内産業視察および観光（九時～五時） 六時 漢拏文化祭開会式参加 八時道知事主催晚餐会（知事公館・参加者二十二名） 濟州オリエンタルホテル

◇十月六日（日） 終日自由時間 五時三十分濟州空港に集合 六時二十五分K E七五四便で帰阪 八時関西空港に到着、解散

本協会の役員、会員は十月四～六日の二泊三日の日程で第三五回濟州道漢拏文化祭を参観した。初日の四日夕、濟州オリエンタルホテルで「在外濟州道民協議会創立晚餐会」を主催した。

「在外濟州道民協議会」は「在外道民五〇万人が一つになって力を結集しよう」とい

う目的で設立されたもので、世界七と韓国内一三の合わせで二十の道民会が漢拏文化祭を機に一堂に会した。晚餐会は、李永哲専務局長の司会で進められ、挨拶に立った呉辰成会長は「故郷の発展に寄与したい」と強調した。

この後、慎久範知事からのソウル道民会副会長、慶北道民会総務部長、関濟協・李永哲専務局長に感謝牌が授与された。慎久範知事は激励辞を通じて、「海外へ出て、苦勞し、力を蓄えた皆さん。濟州道はいま、コンベンションセンターを建設して、子孫に素晴らしい財産を残したいと

願っています。皆さんと力を合わせて建設したいと思いますので、団結して協力して下さい」と力説した。

大邱道民会長の首頭で乾杯し、なごやかに歓談し、コンベンションセンター建設等の話題に花を咲かせた。最後に



関西済州道民協会 '96.10.13 於 和歌山マリーナシティ

鯛づくしの昼食を楽しむ ↓



←← 挨拶する
李純安事業担当
副会長、右は李
茂範事業部長

家族同伴で第3回野遊会を開催

二二七人が参加し和歌山マリーナシティ観光

家族同伴の第三回野遊会が十月十三日(日)に行われ、二一七人が参加した。一行は八時三〇分に本協会前に集合、大型観光バス五台に分乗して出発した。観光バスは阪和道を快走し、新和歌浦観光ホテルに到着、入浴の後、鯛づくしの昼食を楽しんだ。この後、和歌山マリーナシティに到着、二時〜四時にテーマパークのスペイン村観光を楽しんだ。

敬老の日にくづくし贈り物
七十七歳以上の九名の方に

九月十五日の敬老の日、本協会は七十七歳以上のお年寄り九名に心づくしの贈り物を郵送し、お祝した。



本協会の会員であるお医者さんを囲んでの執行部有志のゴルフ会が九月二十九日、白山ヴィレッジで行われた。



第六回ゴルフコンペが四月二十二日(火)、北六甲カントリークラブで男性七十八名、

コマで第5回ゴルフ会

==== 111人が参加

北六甲で第6回ゴルフ会

===== 94人が参加



女性十六名の合わせて九十四名が参加して盛大に行われた。熱戦の結果、四五、四三(ハ)ンデー六・八)の林泰連氏がネット七一・二で優勝した。二位は武原勝利氏、三位は金城清文氏がそれぞれ獲得した。また、女性部門では四五、五

一(ハンデー二〇・四)の大島君子さんがネット七五・六で優勝し、二位に河島千恵子さん、三位に河東花枝さんが入賞した。

◇ ◇ ◇

第五回ゴルフコンペが十一月六日、コマカントリークラブで一一一名が参加して盛大に行われた。今回は女性参加者の賞が別枠で設けられた。

第3回濟州国際

市民マラソンに

五一〇〇人が参加

濟州道、濟州道観光協会、毎日放送(日本)の共同主催による第三回濟州国際市民マラソン大会が、四月十三日、濟州道で行われ、外国人千三百余人を含む五千余人が参加した。開会式には、本協会から呉辰成会長、梁斗京常任副会長をはじめ多数が参加し、李熙健関西興銀会長、李相均大阪韓国商工会議所会長らも参加した。開会式に前後して、模型飛行機大会やエアショー、前夜音楽祭なども開かれ、大会に花をそえた。

フルマラソンコースは、濟州市競技場、龍潭スポーツ公園、梨湖海水浴場、涯月邑海岸道路で、美しい海岸風景を縫うコースでタイムを競った。その結果、日本の田中宏暁さん(四九)が二時間四十六分五十秒で優勝し、女子部では、米国のベッキ・ベルンさんが三時間二十三分で優勝した。一方、九二年バルセロナオリンピックのマラソンで金メダリストで濟州海女を母に



吳景宇体育担当副会長と朴慶一郎体育部長

もつ黄永祚選手や濟州出身のマラソン選手金元卓選手らも参加して、慎久範知事らとともに一〇キロマラソンを楽しんだ。また、今大会から、障害者マラソン大会も同時に実施されることになったため、一般市民と障害者の人たちがともに楽しむ大会となった。

第三二回濟州道体育祭典
ゴルフに参加し優勝

第三二回濟州道民体育祭典が三日間にわたる競技を終え、五月三日に漢拏山体育館で閉幕式が行われた。総合優勝は濟州市選手団で、高校男子は南寧高、高校女子は濟州女子商業高校がそれぞれ優勝した。

また在外道民対抗ゴルフ競技団体戦では、東京道民会が中心となった日本Aチームが関西Bチームを抑えて優勝し、個人部門では関西Bチームの金尚洙氏が優勝した。二位は李斗萬氏(釜山)、三位は韓在殷(日本Bチーム)だった。このほか、テニスとキックベースボール部門では、慶北道民会とソウル道民会がそれぞれ優勝した。

らの食邑として与えられたのである。

それ以来、耽羅は、新羅を手本として、新しい文明や文化をとり入れたが、『新唐書』によれば「龍朔（太宗王八年六六一年）の初、樽羅（済州島）の王儒理都羅が使をつかわして入朝してきた。国は新羅武州（今の光州）の南島上にある。風俗は素朴で野卑である。住民は皮衣をまとい、夏は草屋に、冬ともなれな窟室にすむ。五穀を耕作し、起耕するとき牛を使わず、鉄齒をもつて土を起す。初に百済に隸属し、後に新羅に服属した」とある。これは三国時代における済州島の住民の生活、風俗、農業を如実に物語るものである。

高麗時代 SSSSSSSSS

（九二五年～一四〇一年）

耽羅は二八〇年間、新羅の服属国として朝貢してきたが、新羅王朝も末期を迎え、高麗太祖の王建が後三国時代の混乱を收拾し、朝鮮半島をふたたび統一して、耽羅を高麗朝の統治体制に編入した。耽羅は、高麗新政府の樹立とその威勢をきいて太祖八年（九二

五年）には貢使を送った。そして、島の支配者たちは、高麗朝の高級武官職と品階をさげられたばかりでなく、地方統治の権力構造に参与させられて、授けられた職責を担当するようになったのである。高麗の内政が整備されていくにつれて、肅宗十年（一一〇五年）に島を「耽羅郡」と改称し、これを高麗の部県に編入した。高麗高宗朝（一一二四～五九年）には耽羅郡を「済州」と改称し、副使と州官を島に派遣してきて、直接に統治したばかりでなく、外国船舶の出入を監視する名目によつて、島に「防護別監」を常駐させた。これを機に、耽羅におけるこれまでの独自の統治機構は、抹殺され、高麗の統治形態に画一化されてしまったのである。

高麗朝時代の済州島の置かれた状況は過酷なものだった。『高麗史』によれば、「毅宗十二年（一一六八年）十一月、耽羅（済州）安撫使、趙冬議が王にまみえて申すに、耽羅は路が遠く、交通が不便なので、外来侵略の届かないところである。土地が肥沃なので国の

経費がここから出ている。これに先立ちここでは貢納と租税が煩雑でなく、百姓たちは自分の生業に安着していた。ところが、近くにきて官吏が不法行為をするので、敵の首魁良守どもが謀叛を画策し、守令を追放した。王は趙冬議に信任状をあたえ、敵どもをおさえこむように命じた。すると、かれらは自ら進んで降伏してきた。良守ら主謀者二名とその徒党五名は死刑に処せられ、残余の者に対しては、穀物と緋緞をあたえて、なだめた」とある。

すなわち、農民の指導者である良守らは、農民の絶対的だ紊乱した。な支持をよりどころにして、貪官汚吏輩の苛酷な収奪に反対して叛乱をおこし、守令（牧使県令）ども追放したといふのである。この叛乱は、島が高麗朝に編入されて、初めのことなので、高麗朝ならばに島の執権者たちにとつては、かなりの衝撃であった。高麗朝は力でおさえる方針を示したため、農民闘争は、全島的な規模に拡大されていった。明宗十六年（一一八六年）の乱、神宗五年（一二〇二年）の乱、神宗五年（一二〇二年）の乱などがおこり、高麗末期には契丹軍や蒙古の侵入があつて、国内の政治ははなはだ紊乱した。

三国史記における

「耽羅」の記述

三国史記の「耽羅」に関する記述は次の通りである。

◆百済本紀く文周王二年（四七六）夏四月、耽羅国（済州島）が土産物を献じた。王は喜んで、その使者に、恩率の官名を授け

た。

◆新羅本紀く文武王二年（六六二）春二月、耽羅国（済州島）の主、佐平、徒冬音律（あるいは津）が降伏してきた。耽羅は武徳

蒙古軍は高宗八年（一二三一年）から二十数年におわたつて連年のごとく侵入し、朝鮮半島はまったく荒廢してしまつた。済州島にも三別抄の乱、蒙古の占領、和寇の侵入など思いがけない事件が次々におこり、「百姓みな草の実、木の葉を食う」といわれるほどに島民の生活は疲弊した。しかし、高麗朝は、その対応策として討伐軍を編成し、武力弾圧にのりだした。『高麗史』に「済州島の賊魁金成どもが叛乱を起こしたので、五月一日上護軍裴廷芝を安撫使に任じ、これの討伐にあたらせた」とあることは、それを裏づけるものである。

このように、島民たちは高麗朝の圧政に苦しめられたばかりか、こんどは蒙古軍の収奪と横暴に苦しまねばならなかつた。その不満と怒りがついで一三七五年十一月に爆発した。『高麗史』によれば「済州人、車玄有らが官庁を焼きはらい、安撫使林完・牧使朴允清・馬畜使金桂生を殺したあと、叛乱をおこした。州人文臣輔・星主（城主）高実開・鎮撫（士官職名）林彦・千戸（職

蒙古の直轄

三別抄の乱が鎮圧されたのち、濟州島は、元(蒙古)の直轄地となった。濟州島に蒙古官人を初めて置いたのは、元宗十四年(一二七三年)六月である。濟州島を占領した元は、南宋と日本を侵略するために濟州島を平站軍事基地に利用したのみならず、牧馬場としてもフルに活用した。そのため、この島を永遠に支配しようとする元と、島を奪いかえそうとする高麗政府との間に、耽羅(濟州)の争奪をめぐってきびしい対立状態がづづいた。その間に、濟州島は両国の板挟みにあつて、支配と返還がいくどとなく繰り返

えされたのである。極貧にあえぐ島民は、両国の一挙一動に一喜一憂し、二重においかぶさっている暗い谷間のなかでさすらわねばならなかった。

蒙古人は、ほとんどが牧子で、それも遊牧民の出であるので、気性が強暴だった。そのため、島民はたえず危険にさらされ、予期できない災厄におののかねばならなかった。濟州島は元宗十三年(一二七二年)から共愍王二十三年(一二七四年)の一〇二年という長い期間にわたつて、異民族の支配に呻吟せねばならなかったのである。元は元宗十五年(一二七四年)の夏、戦艦九百隻、士卒一万五千(うち六千弱は高麗助勢軍)をもつて慶尚道合浦(いまの馬山)を出発して、日本東征を断行したが、たまたま台風にあい、その遠征は惨澹たる結果におわつた。兵站基地としての濟州島は、軍馬の補給はもちろんのこと、島民たちは、伐材から造船にいたるまでの造船労務と戦艦の水路(沙工)として強徴されていたのである。島民にとつては、途方もない

濟州古来の民家



過酷な負担だった。

行政府に参与せしめた。星主・王子は、島のシンボルであると同時に、元の地方長官であるといふ二重の性格をもつようになった。

忠烈王二年(一二七五年)八月、蒙古馬一六〇匹をもつてきて水山坪(城山面)に放牧した。忠烈王三年(一二七七年)、元は耽羅に東西阿幕(警察)を設置し、濟州島では、主に牧場事業を管理監督するもので、東阿幕は水山(城山面)、西阿幕は遮帰(翰京面高山里)においていたとされる。また、忠烈王元年(一二七五年)四月、元は本国の盜賊百余人を、同三年(一二七七年)五月に、同罪人三十三人を、同年八月には罪人四十人を濟州島に流

真 珠

濟州島は、大昔から真珠の産地として名高い。これを知つた中国の原始貿易業者は、キラキラと涙のように光る海水真珠を求めするために、濟州島に深い関心と大きい好奇心をもつて往来したという。

元は忠烈王元年(一二七五年)、濟州を耽羅と復号し、高麗から分離させて元に隸属せしめた。そして、元軍千七百名をここに駐屯させた。これが有名な「耽羅總官府」である。耽羅が高麗に編入されたのち島の行政府から締めだされてきた星主・王子を厚遇し、島における唯一の権威を認めるとともに、耽羅總官府の

刑してきた。重罪人を濟州島に放置した意図は、元の占領政策に反対する者へ脅迫、暴行、略奪をほしきままにして、恐怖の支配をつづけるためだったという。

忠烈王二十年(一二九四年)に元の世祖(フビライ)が崩すると、孫の成宗(チリトル)がそのあとをついだ。忠烈王はこの好機をとらえて、みずから元に赴き、濟州島の高麗への返還を強く主張した。さすがの元の成宗も、この正当な要求をうけいれざるをえなかった。そして、濟州島はようやく二十年ぶりに高麗へ還り、耽羅を濟州と改称した。しかし、元が濟州島を高麗に返還してからわずか三年足らずの忠烈王二十四年(一二九八年)六月、元はまたしても濟州島に總官府をおき、島の直轄を開始した。これは、元が設置した牧場内の馬が非常に繁殖したからだと見られている。忠烈王二十八年(一三〇二年)になって、高麗の強

退に伴い、各地で叛乱が起きた。

元は日本東征を断念したが、濟州島の牧馬場を手放そうとはしなかった。漢拏山麗の草原地帯は豊かな牧草で、馬や騾馬がよく繁殖したからである。牧胡(蒙古人)たちは、耽

羅牧馬場をあくまで維持するために、島内における反蒙勢力をけん制するため、倭寇と野合した。日本の海賊である

倭寇は高麗末期には少なくとも二十八回は濟州島を襲ったという記録がのこっている。

倭寇の船団にもさまざまあって、五、六十人からなる小グループもあれば、数千人が一〇〇隻、二〇〇隻、はなはだしい時は七〇〇隻という大船団もあった。そうした倭寇に襲われると、食糧などはあま

すところなく奪い去られてしまふのである。
強大な元帝国も、共愍王十七年(二二六八年)に滅び、明が建国された。高麗朝と明との間で、濟州島の帰属問題が何度も話し合われたが、内実

い牧胡が叛乱し、そのため、高麗朝は牧胡討伐を命令した。

王は都統使(総司令官)崔瑩に將軍に教書を下して、「耽羅国は海中にありながら、代々朝

琉球(沖繩)との関係

晴天の日、漢拏山頂にのぼ

りたち、はるか西太平洋上をみわたせば、うつすらと沖繩島が望まれる、という。それほど沖繩は、濟州島民にとつ

て親近感のもてるどころであつた。濟州島を三多(風多・石多・女多)の島というように、沖繩もまた三多(風・珊瑚・砂糖きび)の島である。

琉球と朝鮮との交通は、一三九九年、中山王察度が高麗

辛昌王のもとに使臣玉之をつかわし、倭寇のために掠められてきていた朝鮮人を送りかえしたことにじまつた。一三九二年、高麗朝にかわつて、李朝が興つたが、察度の武寧

肖古禿不花・觀音保らが、わが臣下を殺戮し、わが百姓を

奴婢にした。その罪悪が極度に達している。いま汝に統帥の権限をさずける。行つて全軍隊を督励して、必ず所定の

琉球(沖繩)との関係

球使船に塔乗させてつかわし

たことはあつたが、特別に船を派遣することはなく、後日には、日本の貿易船を介し、

兩國の国交はおこなわれた。濟州島と琉球との交渉は、『李朝実録』に記録されてい

る。文宗元年(一四五〇年)、濟州人四人が、沖繩の臥蛇島に漂流し、端宗元年(一四五

三年)に送還された。世祖元年(一四五八年)に沖繩に漂着していた濟州人四人が送還されてい

「よ」と激励している。こうして、濟州島の牧胡は、

高麗軍に完全に討滅掃蕩された。強大な元の権力と牧畜の經濟力を背景にして、島民に

君臨し、横暴をきわめ、はなはだしくは、高麗の国権まで

はそれを悲しみ、父王を日本

からとりかえすため、光海三年(一六一一年)に船出した。

途中、はげしい暴風雨におそわれ、濟州島の朝天浦に流れ

ついた。不幸にも、船の中の宝物に目がくらんだ濟州牧使

に王子一行は残らず殺されてしまった。暴虐きわまりない牧使は、琉球が島の辺境を侵したので、やむなく殺した、

もないがしろにしてきた蒙古人の勢力は、一〇二年ぶりに

やつとその命脈を絶つたのである。一三七五年のことであつたが、山麓地帯の放牧、

火田地帯の農耕法、牧夫の皮冠套、防雨用毛笠、乗馬用鞍、

七九四年)には沖繩人三人が

濟州に漂着してきた。さらに正祖二十一年(一七九七年)

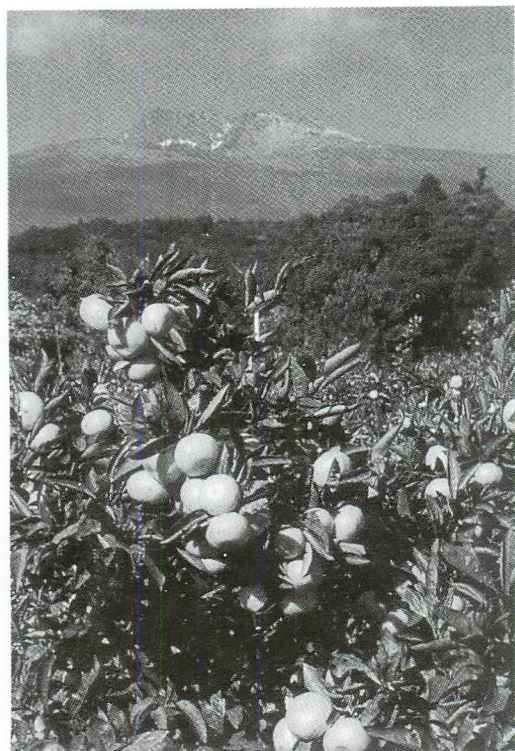
大静県に、純祖元年(一八〇九年)大静県唐浦(大坪里)に、純祖九年(一八一七年)牛

島(旧左面)に、同二十年(一八二八年)旌義県孤林浦(為美里)にと、濟州島と琉球(沖繩)との関係は主に海難によ

る交流だつた。当時、濟州島には琉球語の訳字はなく、ただ漢語・倭語の訳字、通事(通訳)しかおいていなかったため、琉球人が濟州島に漂着してきても取調べようがなかつた。正祖はその不便を考慮し、

十八年(一七九四年)に、濟州

牧使に命じ、琉球語科目を島内に特設し、語学に素質のある濟州子弟に琉球語を教えるようにした。



柑橘（ミカン）

濟州ミカンは一五二六年から栽培され、一七〇〇年は三千本の木があったという。そして、一九六〇年の総生産量は約二百トンで、現在は約五万トンである。在日同胞が日本から贈った苗木は団体で二百万本、個人で八十万本にもなるという。在日同胞がミカンの増産に大きく貢献しているのである。

牛馬追い歌、婦人のかぶる帛巾など、濟州島を一〇二年間にかけて占領、支配した元（蒙古）の遺風は、いまなお残っている。畑や部落の入口にのみあげられた石爺（ドルハルバン）や石像なども牧胡の遺風だという。

李朝時代 S S S S S S S S S S

（一三九二年～一九一〇）

濟州島で牧胡が高麗軍に打ちほろぼされてから一八年目の、一三九二年に高麗朝にかわって、李朝が成立した。新王朝の体制と組織は高麗朝とさして変わらなかったが、濟州島に対する李王朝の施策は次のようなものであった。

まず、星主・王子職を廃止し、士官の称号を改称した。東道千戸所は東道静海鎮に、西道千戸所は西道静海鎮となし、都千戸（職名）は都守司、千戸は上守司、副千戸は副守司にそれぞれ改称した。そして東・西道静海鎮の任務は、軍馬を徴発し、沿海地方を防御する軍事的官庁であり、東西都守司は、周辺の軍馬を監察し、牧揚の事務を担当する士官の名称であった。かつての星主には、濟州都主管左都知官、王子には、濟州都主管右都知官という世襲制の特殊な士官職名がさづけられた。太宗八年（一四〇八年）に

は、島民を貧富の差により、三等級に区分し、大戸（五〇結）は大馬一匹、中戸（三〇結以上）は中馬一匹、小戸（一〇結以上）は五戸が合同して、中馬一匹ずつを納めさせるようにした。また太宗一四年（一四一四年）には、田税に一定の決まりがなかったので、地品の差等によつて収税するようになった。次は、旌義県と大静県を新設し、それぞれに邑城を構築し、濟州邑とあわせて、三邑制を実施した。太祖三年（一三九四年）には濟州島に初めて学校が設立され、士官（両班）の子弟に伝統的な教育を施し、科挙応募

の機会があたえられた。そして、太宗十六年（一四一六年）に旌義、大静の両県に郷校（学校）が設立された。濟州郷は龍潭里に、大静郷校は沙溪里に、旌義郷校は城邑里にそれぞれ設立されが、郷校設立によつて、儒学の振興はめざましいものがあり、孔子釈奠祭と漢拏山祭などが恒例行事となった。

で、濟州馬を国民全般にゆきわたるようにするため、太宗五年（一四〇五年）、濟州島から「私馬出売禁止令」を撤廃し、九年（一四〇九年）には、民間の騎馬二千頭の出島を許可した。翌年には、進上馬六百頭を全羅道地方に放牧させ、その馬を半値で民間に払いさ

人口増加で本土に移住

李王朝は濟州島特産物のミカンの増産をはかり、広く普及させるため、島内の栽植奨励は勿論のこと、気候の温和な本土地方にもミカンを栽培させた。太宗十三年（一四一三年）のことで、上林園別監を濟州島に送り、数百株のみかん苗木をとらせて、順天地方をはじめ、南海諸沿岸部落に移植させた。翌年には全南海岸諸郡にも移植した。現在は慶尚南道の南海と巨濟島にミカンの木があるが、当時の濟州島から移植されたものと思われる。

また、濟州馬を増殖するためにも力が注がれた。濟州馬は蒙古がもたらしたものだが、軍馬としてあるいは騎馬用としての声価が高かった。そこで

に一〇カ所の烽火台を築いた。濟州島の地方官制は、牧使の下に県令とよばれる牧民官があり、中央の六曹にちなんで六房（吏・戸・礼・兵・刑・工）をおき、それぞれの事務を担当していた。別に郡守・県令の諮問機関である民選の座首（郷長）があり、現地採用の衙前がいて事務を分掌していた。典吏（衙前）の権勢は泣く子もだまるほどの強さをもっていて、彼らは傍若無人に振る舞った。それが羨望のため醜い争いが繰り広げられた。

世宗元年（一四一九年）に

朝天面出身の金時殿という青年が一九一九年三月一日の大韓独立宣言文を密かに持ち帰り、全島挙げての宣言決起を期して同志を募ったが、糾合に失敗したので郷里の里人を動員、村はずれの丘に集合して大韓独立方歳を宣言した。この

三・一 独立万歳亭（朝天面）

時、日本の官憲に逮捕された者約百名、結局、金時殿をはじめ同志十四名が煽動・主犯の全責任を負って長い獄刑に服した。現在では、丘を万歳遺跡地として保護管理し、八角亭と記念碑が建っている。

員数は八百余名だったという。彼らは住みなれた家を捨てて、ポロをまとい、親子ともども官憲の厳しい監視下に、全羅道を經由して平安道、黄海道までの二千余里の道程を歩かねばならず、苦痛の行程に、目的地にたどり着いた時は七百名に満たなかつたという。その移住策によって、世宗末年には七二四七戸となり、島民の食糧事情がやや緩和され、犯罪も減つたという。

海の牢獄

日本の海賊が頻繁に來襲した。三浦倭乱（一五二〇年）や乙卯倭乱（一五五五年）などがおこり、そのため、水山城、遮帰城、別防城、涯月城、明月城等々、当時の濟州島は、土城・木城・石城でかこまれた城の島だった。

濟州島は四面を海にかこまれた孤島である。そのため、流刑の地と利用された。濟州島への流罪は高麗朝にはじまり、濟州島が「海の牢獄」として重視されるようになったのは、李朝中期における党争の始まりからである。濟州島に流された多くの人びとは、

中央の政争に敗れ、あるいはその犠牲になつたエリートばかりだった。その中でも五賢人がつとに有名である。五賢人とは、金淨、宋麟寿、鄭瀧、金尚憲、宋時烈の五人のこと。位牌のかわりに五個の石片（石室書院）を建てて、かれらを追慕するとともに、学問を修める島内の儒生たちが、年に一度ここに会合し、迎慕の焼香儀祭をおこなつた。これほどに、彼らは死後も島民から多大の崇敬をうけていたのである。五賢壇に祀られている五賢人をみてみよう。

金淨

金淨（一四八六〜一五二〇年）は慶州人である。わずかに十歳にして四書（論語・孟子・中庸・大学）を読みつくし、若くして科挙の甲科に首席で及第した。官職は刑曹判書をつとめた。中宗の信任をえていた趙光祖が党争に敗れて死を賜り、その一派の者はことごとく追放された。この乙卯士禍に連座した儒臣のなかに金淨もいたのである。一死をまぬがれて濟州島に流された金淨は、城内嘉樂川東岸にある金剛寺という荒廢した寺に幽閉され、そこから出ることが禁じられた。孤独の生活を送りながらも、近隣の子弟をあとめ、儒学を教え、島民に喪礼・祭礼法を示し、淫祠（神堂）崇尙の迷信打破を強調し、島民の覚醒を促すなどの活動をつづけた。その合間に、『濟州風土録』をあらわし、島の風土と歴史を国の内外に紹介した。流されて一年後に死を賜つた。中宗十六年（一五二一年）十月のことで、三十六歳だった。

宋麟寿

宋麟寿（一四八六〜一五四七年）は、中宗朝の名臣として知られる。台諫職にある時、権臣金安老の執権に反対したのがたつた。濟州牧使に左遷された。都に呼びもどされ、たが、またはや金安老一派にねらわれることとなり、泗川（慶南）追放された。その後、金安老らが排除されると、返り咲き、大司成・大司憲・吏曹参判等の要職を歴任したが、またもや尹元衡一派の圧力によって全羅道視察使に左遷された。その後、故郷の清州（忠北）に帰り、数年間の隠居生活を送つたが、そこで、つい

に明宗二年（一五四七年）に死を賜った。性理学の大家として、士林の尊敬をうけた彼は、死後、清州の華陽書院、文義の魯參書院、全州の華山書院、濟州島の橘林書院に祭られた。著書には『圭庵集』がある。

鄭 滙

鄭滙（一五六九〜一六四一年）は、光海君二年に文科に及弟した。王位継承をめぐる、領議政柳永慶は、大君（嫡子）を大君といひ、庶出を君と（いう）を立てようとしたのに対し、李爾瞻らの大北派は光

海君を立てようとした。ここに一大暗闘が繰りひろげられたが、大北派は敗れて追放された。ところが、彼らがまだ配所につかないうちに、宣祖が薨じ、李爾瞻らは呼びもどさ、世子光海君が位につき、同時に柳永慶を流し、殺した。そして、わずか八歳の永昌大君を江華島の密室で熱殺した。大君の仁穆王后は廃せられ、その母は濟州島に流された。その時、争いに加わなかった中北派の鄭滙（司諫院正言）からは、あどけない少年永昌大君の殺害事件、大君の廃母論

につき、その無謀性と不当性を上疏文に書いて、光海君と李爾瞻らに突きつけた。これに大怒した光海君は、鄭滙をただちに逮捕し処刑せよと命じたが、多くの者が彼の死刑に反対したため、濟州島大靜界に流刑せざるをえなかった。光海君六年（一六一四年）のことで、四十五歳の時だった。彼は書齋にとじこもって読書にふけり、その合間に『徳弁録』、『自省書』、『自警箴』などを書きあけている。流罪の翌年からみずから進んで、農耕に従事し、濟州女人を迎えて

住んだが、都では光海君が廃されて仁祖が政権をとった。これを仁祖反正という。そして、鄭滙は仁祖元年に赦されて帰京し、ただちに朝に入り、吏曹参議、大司諫に昇進した。義侠心に富み、気骨のある人で、仁祖朝の丙子胡乱に敵との和議を排斥し、出城時に自決未遂で帰ってきた人である。十年間の濟州島生活の間は学問と徳行をもって島民を教化し、島の文化発展に寄与した。

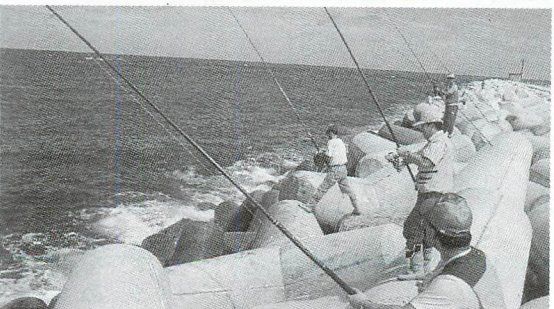
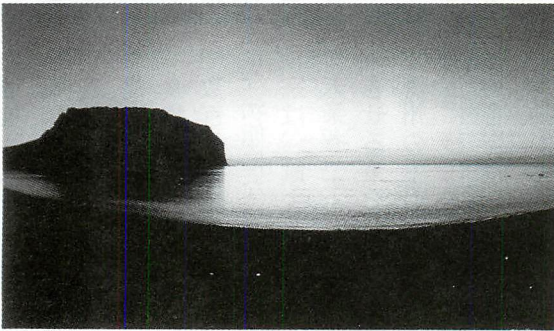
金尚憲

金尚憲（一五七〇〜一六五〇年）は安東の人である。宣祖二十五年（一五九六年）に文科に及第した。大司諫、大司憲、大司成、工曹、刑曹、吏曹判書等を歴任した。彼は仁祖反正には加わらなかったが、西人のうちでも清西派の領袖だった。宣祖朝三十四年（一六〇一年）に安撫使として濟州島にきたことがある。愛親覚羅が満州におこって、金国（清）を建て、仁祖一四年（一六三六年）ソウルを侵攻してきた。この丙子胡乱に朝臣たちは主和派と休和派に分裂し、激突したが、主和派が主導権を握った。休和派の主要人物

* 濟 * 州 * 十 * 景 *

島の名勝として、濟州十景があげられる。一に城山日出（城山面城山里）、二に紗峰落照（濟州市吾羅里）、三に瀛邱春花（濟州市吾羅里）、四に橘林秋色（西帰邑西洪里）、五に山浦釣魚（濟州市山地浦）六に古菽牧馬（表善面鹿山場）、七に正房瀑布（西帰邑西帰里）、八に靈室奇岩（漢拏山中腹）、九に山房窟寺（安徳面沙溪里）、十に鹿潭晩雪（漢拏山山頂）である。

上から城山日出、山房山、正房瀑布、山浦釣魚の景観



だった金尚憲（応曹判書）は解任され、瀋陽（奉天）に流され、三年間、異国の空の下で苦渋の生活を送った。一六四五年に釈放されて故国に帰り、また起用され、左議政・領敦寧府使までつとめている。

宋時烈

宋時烈（一六〇七—一六八九年）は、仁祖十一年（一六三三年）に司馬試に最優等の成績で合格し、敬陵参奉に任ぜられた。かれは秀才中の秀才で、その切れ味は、カミソリの刃のごとしと定評があった。

その執権党は西人で、宋時烈も属し、左議政の要職にあった。西人と南人との間に、礼節問題についての一大論争が巻き起こった。大妃の喪礼にたいし、国王の服すべき喪制について、宋時烈は基年（一年）説をとえ、南人尹鐔らは三年説をとえ、この論争に対して顕宗は南人の説に傾いたので、西人はしだいに排除され、南人はますます勢力をのびた。肅宗が即位するや、さすがの宋時烈もついに官爵を削られて慶北に流され、南人が西人にかわって政

の優勢期間は短かった。肅宗六年（一六八〇年）に謀叛事件がまきおこり、西人が再登場するようになると、宋時烈は配所から放還されて、ただちに領中樞府使として、政界に降り咲いた。このとき、七四

勢道政治

純祖・憲宗・哲宗の三代は、一般的に勢道（世道）政治といわれる。一種の変則的な政權時代だった。それは、王の近族・姻戚のなかから王の信任をえた者のみが、政治的実権を掌握し、大小政権をほし

いままにふるまつた時代をいうのである。勢道政治が本格化したのは、純祖朝からのことである。純祖は十一歳の少年で、老論派を背景とした外戚安東金氏が政治を牛耳ったのである。それで、安東金氏一族は、世に勢道宰相といわれ、世論の悪評をよそに、驕慢な生活態度をもつて、獵官・諸利輩を相手に私利をむさぼることを日常茶飯事とした。

憲宗もまた年少の王である理由で、やはり祖母の純元王后金氏の垂簾摂政の形態がつづいた。王がロボット化したのはいうにおよばず、依然として安東金氏一門に政治的実

権が掌握されていた。病弱であつた憲宗王が、在位十五年目に後嗣を残さずして逝去した。そこで、安東金氏一門は、いまは零落のどん底にある宗親・金溪大院君の徳院君（元範）を江華島の山村からさがしだして王位につかした。これが哲宗である。わずかに四歳で即位し、短い在位だったが、やはりロボット王で、政権のいっさいが金氏一門のものだった。

島民の義兵闘争

純祖十一年（一八一一年）、洪景來の乱がおき、やがてこれが全国的な一般民乱に発展し、濟州島までおよんだ。二年後、濟州島の梁濟海一党が呼応したのである。梁濟海は、濟州牧中文（現濟州市地域）の風憲（面長）だった。彼は、「濟州島民は平安道民たちのように勢道政治、地方差別の悪政をたちきるため民衆の力、正義の叫びを結集して立ちあ

余人は一網打尽に投獄された。このほか、哲宗朝には平役と場火税の軽減を要求し、全島民が立ちあがり、高宗朝には飢餓に苦しんだ農民が数千、濟州邑城を占領し、激しい抗議デモが展開された。島民にも文明開化の波が押し寄せてきたが、乙巳事変（一八九五年十月）や断髮令（一八九五年十月）の強制実施に端を発し、全国各地に義兵闘争が巻き起こった。島民もこれに呼応して立ちあがり、新制度に反対して大規模なデモを敢行した。政府は島民の要求を聞き入れて、府と觀察使制度を廃止し、改めて牧使をおき、裁判所判事を兼任させ、警務庁参事官を廃止したが、首謀者等が斬首されるなど島民の尊い血の代価だった。この後も、生活苦に喘ぐ島民はしばしば乱を起こした。一八九八年の房星七の乱、一九〇一年（光武五年）の李在秀の乱などである。

島民の文明開化

李朝初期末までの西洋文明に対する知識は皆無に等しかったが、濟州島に最初に漂



(上) 蒙古からもたらされた放牧

(下) 濟州郷校



着したのは日本に向うオランダの船だった。仁祖五年（一六二七年）のことで、乗組員は島民に捕らわれてソウルに護送された。孝宗四年（一六五三年）にもオランダ船が難破し、大静県の海岸に漂着した。彼らの見聞録は、「島は人口が多く、食糧品を豊富に産出し、馬や牛が豊富である。かれらはそれから毎年多くの歳入を国王に納めている。住民は非常に貧しく、本土の人

からはほとんど尊敬されていない。島の中央には森林に蔽われた高い山がある。その他の地域は、大部分は低い不毛の岡で、その間に多くの谷があつて、人びとはそこに稲を植えている」と伝えている。

年）を無視し、多数の宣教師を次々に濟州島に送りこんで、布教活動を通じて極東進出の足場を強固にしていた。濟州島に天主教を伝えたのはフランス人神父で、一八九九年のことだった。天主教は弾圧され、宣教師は決まって極刑にされたが、重税になやむ島民は、宣教師のたくみな説法によって教化されていった。

一七八九年五月、フランスの極東探險隊が濟州島の沿海に現れた。その後、フランスは「朝法修好条約」（一八八六年）を締結して、宣教師の活動を認め、重税を減らした。日清戦争（一八九四〜九五）は、日本の勝利におわつ

濟州島は、東洋の四大漁場（他は東シナ海、黄海、延海州）の一つといわれるほどの海産物の宝庫である。そのため、日本漁民が濟州島漁場に侵透してくることが多かった。そのつど、入島反対の抗議デモがうず巻き、大規模な騒動になった。ときの李朝封建政府もあわてた。協弁統理交渉通商事務金玉均をして濟州島漁業問題について日本の島村公使代理と交渉もあつたが、島民たちの猛烈な抗議闘争によって、かれらの侵犯を挫折せしめたのである。

しかし、江華島条約（一八七六年三月）を締結してからは、日本の漁民たちは、公然とそして大々的に島の漁場を荒しまわり、漁具や技術のとぼしい島の漁民を海から追いだし、独り舞台のように漁労作業を強行した。かれらは甲申政変（一八八四年）を契機として、濟州島に対する侵略を強化し、高宗二十四年（一八八七年）からは、大漁船団を編成し、濟州島に上陸して海賊行為を行った。

戦争の過程で日本は、朝鮮の親日政権を通じて、すべの政治・経済・軍事的侵犯を強化した。一八九四年、朝鮮に対する支配体制を確立するため「洪範一四條」を公布せしめた。その一条は「地方官制は早く改定をおこなつて、地方官吏の職権を限定すること」というもので、濟州島では一八九二年、濟州牧・大静郡・旌義郡を「濟州郡・大静郡・旌義郡」に改篇し、一八九五年、勅令第九八号の地方制度改正によって、濟州を府（全国二三府中の一）に改め、牧使を廃止し、觀察使（知事）をおいて濟州・大静・旌義三郡を統率するようにした。また判官制度を改め、参事官をおき、郡守を兼務せしめた。裁判所には判書をおき、その下に主事一三人をおいた。また警務庁も新設され、濟州・大静・旌義に郡守をおき、觀察使の指揮をうけるよう、大幅に改篇した。

※一九一〇年、李氏朝鮮は、日本に併合され、植民地となった。

済州道庁僑民室をご利用下さい

関済協でも業務を代行しております

在日済州道民のために、民願処理業務等を担当する「僑民室」が済州道庁内に設置され運営されております。各種民願処理業務等は下記の通りですが、本協会事務所でもそれらの処理業務を代行しておりますので、お気軽にご相談、あるいはお問い合わせください。業務は下記の通り、済州道愛郷墓地安葬、戸籍整理訂正、等で、その他、土地・家屋登記所有の相談や招請の相談がかなりの件数にのぼっております。



本協会専務理事
李永哲

【業務内容】

1. 愛郷墓地内 安葬事業一切斡旋
2. 一般地域内 安葬事業一切（有碑）
3. 一般地域内 安葬事業一切（無碑）
4. 移墓一切 墓地1基当
5. 墓石築
6. 碑石（中南鳴石）小型一切
7. 碑石（中南鳴石）中型一切
8. 碑石（中南鳴石）大型一切
9. 祖上墓伐草代行 墓所 大・中・小型
距離不問
10. 一般戸籍訂正
11. 戸籍謄本（抄本）
12. 分家届
13. 出生届
14. 婚姻届・離婚届
15. 死亡届
16. 合同慰霊祭（年1回）
17. 物件登録及び民事・刑事関係・司法書士・弁護士等 斡旋
18. 僑民投資 誘致

主要推進施策

- ◎無依託在日同胞老人養老事業
帰郷希望の在日同胞老人を済州道内の養老院に受容し一定額的生活費を支援します
- ◎在日同胞老人故郷訪問事業
生活に困窮する65歳以上の同胞老人に4～5日間済州道を訪問、観光していただきます
- ◎太平洋戦争犠牲者遺骨奉還事業
太平洋戦争時に強制徴用等をされ死亡した済州道民の遺骨を愛郷墓地や納骨堂に埋葬します

【お問い合わせ】

関西済州道民協会

大阪市東成区玉津1-4-22

TEL 06-973-3700

FAX 06-973-6080

《済州道庁僑民室》

TEL 064-47-4932

FAX 064-40-1618

編集後記

「楽しく、明るく、ほがらかに」をモットーとする呉辰成執行部は、早や一年半が経過しましたが、会員一千名達成と婦人会結成という二つの公約のうち、婦人会結成は昨年六月に実現できました。二一世紀は「女性の時代」と言われますように、婦人会の活動が大いに期待されます。残るもう一つの公約の会員一千名達成は、目下、役員が一丸となつて取り組んでおります。

今回は特別企画として「濟州島の歴史」を掲載いたしました。「在日」という特異な条件の中にある在日同胞社会の三世四世の若い世代においては、日本社会への同化傾向が急速に進展しているようで、それに伴って、民族精神が希薄になりつつあり、故郷が遠くなりつつあります。「故郷は遠きにありて思うもの」と申しますが、「濟州島の歴史」を少しでも知っていただければ、

故郷・濟州島が少しでも近くなるだろうと考え、先史時代、

三國時代、高麗時代、李朝時代までの概略史を簡単に掲載しました。若い世代が郷土に關心を持ち、民族心涵養の一助になれば幸甚に存じます。

ご承知の通り、慎久範知事は「濟州国際コンベンションセンター」の建設計画を打ち出し、私たちが在日の道民にも参与を呼びかけております。それに呼応して、関濟協の梁斗京常任副会長が大阪地区推進委員会の委員長に就任し、関濟協あげての支援活動が整

いつつあります。二〇〇〇年完成予定の「濟州国際コンベンションセンター」の建設に参与することは、故郷がより近くなるばかりでなく、そのコンベンションセンターは子々孫々に引き継がれる素晴らしい財産として永遠に残っていくものです。それは、百万濟州道民が二一世紀を輝かしく迎えるための大きな礎石であり、百万濟州道民の力量を一つに結集するならば、必ず達成できる事業であると確信しております。

今年末に任期満了となる金泳三大統領の後任者選びで、韓国の政局は混迷、緊迫しております。論語に曰く、「道之以政、齊之以刑、民免而無恥、道之以徳、齊之以禮、有恥且格」(これを道(みち)びくに政を以てし、これを齊(と)とるに刑を以てすれば、民免(まぬが)れて恥ずることなし。これを道びくに徳を以てし、これを齊うるに礼を以てすれば、恥ありて且(か)つ格(ただ)し)。つまり、「法制禁令など小手先の政治で導き、刑罰で統制していくなら、人民は法の網をすりぬけて恥ずかしいとも思わないが、道徳で導き、礼で統制していくなら、道徳的な羞恥心を持つてその上に正しくなる」ということです。次期大統領も道徳心の厚い人を期待したいと思ひます。それにしても、北韓の食糧危機は目を覆いたくなるほどの惨状です。これも政治による人災ですから、政治家は特に慈悲心の厚い人であつて欲しいと願ひます。

なお、本誌の発刊にあたりましては、李永哲専務理事並びに制作を引き受けていただきました韓登氏の労苦に改めて感謝申し上げます。



高昌照・企画担当副会長



李福蔵・企画部長

企画副会長 高昌照

企画部長 李福蔵

関西濟州道民協会 会報

関 濟 協 第4号

1997年7月10日発行

発行所 関西濟州道民協会

会長 呉 辰 成

企画編集 関西濟州道民協会 企画部

関西濟州道民協会

大阪市東成区玉津

1-4-22

TEL 06-973-3700 (代)

FAX 06-973-6080